

# 美濃早生大根の早期播種限界に関する試験

豊岡 治平・橋口 満男・吉武 貞敏

福岡県農業試験場

TOYOOKA, J., HASHIGUCHI, M. & YOSHITAKE, S. A Study on the Limit of Early Sowing Time of Minowase Radish (Japanese Summer Radish)

## I 緒 言

高冷地では所謂高冷地早出し栽培として白菜、甘藍、大根等が5月～7月に播種され、8月下旬から9月にかけて出荷されているが、最近平地に於ても、甘藍及び白菜は春蒔栽培として行われているが、大根に於ては、未だその栽培をみない。

故に、大根の春蒔栽培における播種期と収穫期並びに優良適品種を検討するため、1951年に美濃早生大根、数系統を用い簡単な試験を行い、2,3の結果を得たので報告する事とした。

尙本研究に当り、種々御指導、御援助を賜つた、九州農試、松本技官に対し、深甚の謝意を表する次第である。

## II 試験材料並びに試験方法

i) 供試品種 1. 美濃早生(久留米市合川産)、2. 志村美濃早生 3. 黒葉美濃早生 4. 東京美濃早生 5. 矢切美濃早生 No.2, 6. 矢切美濃早生 No.1, 7. 美濃四倍体。

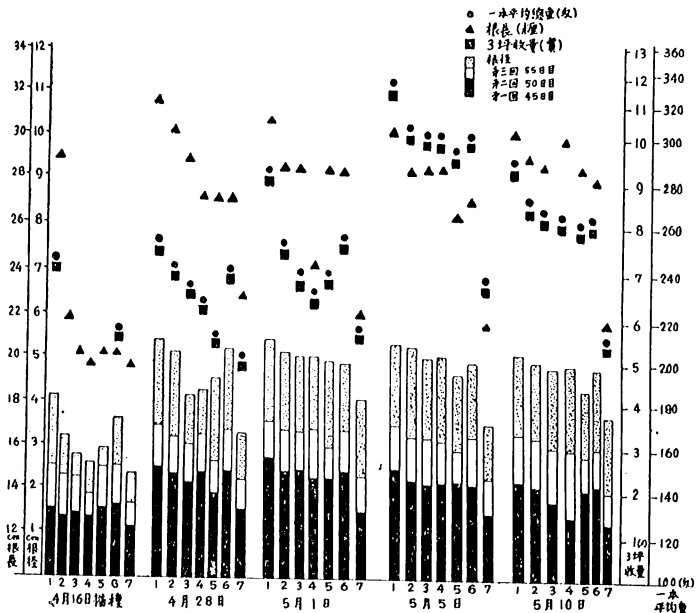
ii) 播種期 第1回 4月16日, 第2回 4月28日, 第3回 5月1日, 第4回 5月5日, 第5回 5月10日。

iii) 区制 2区制, 1区3坪, 畦巾3尺, 株間1尺2寸, 高畦。

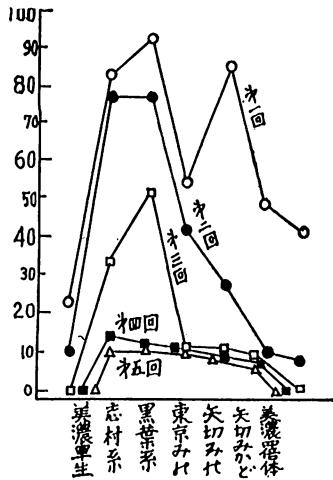
## III 成績並びに考察

i) 生育 葉数は各播種期とも品種間には大差なく

第1表 播種期と根径、収量、根長、1本平均重。



第Ⅱ表 播種期と抽苔率



第Ⅲ表 抽 苔

播種期	項目				抽苔率	抽苔始期	収穫期
	品種	濃	早	生			
四月十六日播種	美濃	濃	早	生	24.13	6. 3	6. 10
	志村	村	系	系	82.78	5. 23	6. 10
	黒葉	葉	系	系	93.10	5. 23	6. 10
	東京	京	み	の	55.17	5. 29	6. 10
	矢切	切	No. 2		86.67	5. 29	6. 10
	美濃	濃	四	倍	50.00	6. 3	6. 10
四月二十八日播種	美濃	濃	早	生	10.34	7. 3	6. 22
	志村	村	系	系	79.31	6. 20	6. 22
	黒葉	葉	系	系	79.31	6. 14	6. 22
	東京	京	み	の	41.38	6. 14	6. 22
	矢切	切	No. 2		26.67	6. 26	6. 22
	美濃	濃	四	倍	10.00	7. 3	6. 22
五月一日播種	美濃	濃	早	生	0	0	6. 25
	志村	村	系	系	33.33	6. 26	6. 25
	黒葉	葉	系	系	50.00	6. 26	6. 25
	東京	京	み	の	13.79	6. 26	6. 25
	矢切	切	No. 2		14.13	7. 1	6. 25
	美濃	濃	四	倍	13.20	7. 1	6. 25
五月五日播種	美濃	濃	早	生	0	0	7. 1
	志村	村	系	系	16.54	7. 6	7. 1
	黒葉	葉	系	系	14.23	7. 6	7. 1
	東京	京	み	の	13.25	7. 6	7. 1
	矢切	切	No. 2		11.52	7. 6	7. 1
	美濃	濃	四	倍	10.83	7. 6	7. 1

五月十日播種	美濃	濃	早	生	0	0	7. 6
	志村	村	系	系	13.33	7. 18	7. 6
	黒葉	葉	系	系	13.33	7. 18	7. 6
	東京	京	み	の	13.33	7. 18	7. 6
	矢切	切	No. 2		8.52	7. 18	7. 6
	美濃	濃	四	倍	8.00	7. 18	7. 6
	美濃	濃	四	倍	0	0	7. 6

収穫期において夫々 30 枚前後であるが、美濃四倍体のみは 20 枚前後で他品種に比し著しく少かつた。矢切系においては晩蒔程度葉数が減少しているがこれは暑気のためと考えられ、美濃早生、志村、黒葉、東京においてはその差がなく、これは暑気に強い事を証明している。根部肥大をみると、4 月 16 日播種では、可成りの抽苔がみられたので、根部肥大程度も顕著な差がみられる。即ち美濃早生が最高で 4.04 種、矢切 No.1、3.77 種であり他のものは、抽苔が早く且つ多いため、肥大は途中で停止した。各播種期を通じて肥大早く且つ大なるものは美濃早生であり、4 月 28 日までは矢切 No.1 がこれに次いでいたが、5 月 1 日以降は志村、黒葉、東京の順となり、葉数の場合と同様に高温となるにつれて、矢切系は性能が衰え、志村系等は益々性能を発揮する様である。根長においても、葉数、根部肥大と同様の結果を示している。

収量においても大体前期の結果と一致しているが、4 月 16 日区のみは抽苔の早いものがあつたので、美濃早生、矢切 No.1 以外は品質劣悪であつた。4 月 28 日以降では全品種とも可成りの品質を備えていた。

抽苔率は第 2 表、第 3 表の如くで早蒔程抽苔率多く 4 月 16 日区で最高 92.8% を示すものもあるが、濃早生 24.1、矢切 41.7% でありこの程度の抽苔ならば、抽苔期が収穫期と同一時期となつているので、品質、収量にはあまり影響はなかつた。他の高率を示した品種では抽苔のため根部肥大は中止し、品質収量劣悪であつた。4 月 28 日以降における抽苔は、殆んど収穫期と同一時期となるので収量には影響がない様である。

以上の結果から考察するに実際栽培の場合には品種のとり入れ方を考えるに、4 月中旬播種では、美濃早生を、4 月下旬では美濃早生及び矢切 No.1、美濃 4 倍体を、5 月初旬からは暑気に強い美濃早生、志村美濃早生、黒葉美濃早生、東京美濃早生を使用出来ると思考せられる。